



特集 — はじめる減災。暮らしの中で備える工夫

- いつ起こるかわからない災害に、いまからできることを
- 「住宅省エネ2024キャンペーン」が決定!!
- リフォーム前に知っておきたい住宅部材のあれこれ vol.9

NRBC公式サイトができました!こちらをチェック!
<https://nrbc.jimdofree.com/>

QRコードが読める携帯・スマートフォンをお持ちの方はこちらから▶



NRBCはお客さまに寄り添った暮らしをご提案するリフォームのエキスパート集団です

TOPICS

「住宅省エネ2024キャンペーン」がスタートします!!

昨年大好評の住宅省エネ2023キャンペーンに続き、「住宅省エネ2024キャンペーン」がスタートします!!このキャンペーンは、国土交通省・経済産業省・環境省が三省連携して、住宅の断熱性向上や省エネ化を支援する事業です。

断熱リフォームをすることで光熱費削減・CO2削減効果だけでなく、ヒートショックリスク軽減など、健康面での効果も期待できます。W/Hは室内温度に関する健康リスクを回避するため、冬季の室温を18℃以上とすることを勧告しており、世界的にも住宅と健康は深く関わっていることが注目されています。みなさんの「自宅の室温はいかがでしょうか。」

国も後押ししているこの機会に、ぜひご検討ください!

事業名	子育てエコホーム支援事業	先進的窓リノベ2024事業	給湯省エネ2024事業	賃貸集合給湯省エネ2024事業
対象工事	① 開口部の断熱改修 ② 外壁、屋根・天井、または床の断熱改修 ③ エコ住宅設備の設置 ④ 子育て対応改修 ⑤ 開口部の防災性向上改修 ⑥ 空気清浄機能・換気機能付きのエアコンの設置 ⑦ バリアフリー改修 ⑧ リフォーム瑕疵保険等の加入	高性能な窓への改修	【導入】 ① ヒートポンプ給湯器 ② ハイブリッド給湯器 ③ 家庭用燃料電池を設置する場合に定額を補助 【撤去】 ①～③導入に伴い ④ 蓄熱暖房機 ⑤ 電気温水器の撤去工事をする場合	既存賃貸集合住宅で、従来型給湯器から補助対象エコジョーズ・エコフィールへの取り換えをする場合に補助
補助額	①～⑧の工事に応じ設定補助上限額：20万円 世帯要件により最大60万円	工事内容に応じて定額を補助 上限額：200万円	①は最大13万円 ②は最大15万円 ③は最大20万円 ④は10万円/台 ⑤は5万円/台	機能によって定額補助 ・追炊き機能なし 5万円/台 ・追炊き機能あり 7万円/台
期間 受付	令和6年3月中下旬～予算上限に達するまで (遅くとも令和6年12月31日まで)			

※参考：住宅省エネ2024キャンペーン / <https://jutaku-shoene2024.mlit.go.jp/>

空間の魅力をつくるスクリーン

✓ ロールスクリーン
1枚の生地が昇降するスクリーン。全て降ろした状態は平面上に、全て上げた状態は1本の棒のようになり、空間にコンパクトでスッキリとした印象をもたらします。



✓ 調光ロールスクリーン
ドレープ生地とレース生地の重なり具合によって、窓から入ってくる光の量を調節することが可能です。プライバシーを保護しつつ光を取り入れることができる点が魅力です。



✓ ハニカムスクリーン
ハチの巣のような筒状で中に空気の間層ができる構造のスクリーン。空気の間層によって熱の移動を抑え、断熱性が高い特徴が特徴。省エネ効果が期待できます。



✓ プリーツスクリーン
扇子のようにじゃばら状に加工された生地のスクリーン。柔らかな光を取り入れることで上品な空間を演出し、カーテンとは違った奥行きのある雰囲気を楽しめます。



リフォームをする上でしっかりと知っておきたい様々な部材をご紹介します。今回はスクリーンについてのご紹介です。「もっとスタイリッシュな空間にしたい!」「太陽の光を心地よく取り入れたい!」と考える方に人気の高い住宅部材です。スクリーンの種類は様々ですが、今回は特に人気のある4種をご紹介します。

「暮らし」を映した快適な住まいを実現します!

(有)草木薫工房は小さな工務店ですが、寒い信州で喜ばれる床暖房システムと建築家とコラボする省エネデザイン住宅を造っています。

昭和62年設計事務所として、スタートしてから35年間お客様の悩みに寄りそう家づくりを進めて参りました。当社の強みは「ご家族の暮らし」を形にする家づくりです。

弊社オリジナル床暖房システムと太陽光発電、デザイン特化の住空間で、寒い冬・暑い夏、信州の風土に合った暮らしやすい快適な住まいをお客様と共に作り上げていくご提案を致します。



〒386-1325 長野県上田市市中野130-10

TEL 0268-39-8850

FAX 0268-39-8501

Mail: info@kusaki-ie.com

はじめる減災。暮らしの中で備える工夫

いつ起こるか分からない災害に、いまからできることを

こんにちは。NAGANOリフォームビルダーズクラブです。
立春を迎え、暖かな日々が待ち遠しいこの頃。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。
先般の災害で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。まだまだ寒い日が続きますので、ご自身の体調に気をつけながら、どうか暖かくお過ごしください。

日本は地震や水害など、自然災害が多く起こる国です。皆さんは「災害対策」として、普段どんなことに取り組んでいますか。
一般的に地震対策として多く言われている言葉は「防災」ですが、皆さんは「減災」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。意味合いとしておおよそ防災と似ていますが、今後私たちが災害と向き合っていくためのキーワードとなります。
そこで、災害の被害を減らす工夫として、今回は「減災」のポイントをご紹介します。

防災と減災の違い

防災も減災も似たような言葉ですが、1つ違う点は「災害が起こること、被災することを前提としているか」です。防災は「災害を未然に防ぐ、被害をゼロにする」ことを目的としています。その一方で、減災は「災害が起こる前提のもと、その被害を最小限に抑える」ことを目的としています。
正確に予測できない自然災害に向き合うためには、どちらの考え方も重要です。

防災

「災害を未然に防ぐ、被害をゼロにする」ことを目的としています。川が氾濫しないように堤防をつくったり、耐震リフォームを行ったりすることも防災の一例です。

減災

「災害が起こること前提のもと、その被害を最小限に抑えるためにあらかじめ行う取り組み」。自然災害の発生を防ぐことは難しいため、被害をいかに軽減させるかを目的としています。

長く暮らす目で見た防災・減災

日本の自然災害で近年注目が高まっている地震対策。「地震が起きてても自分の家は大丈夫なのか。」と不安に感じている方も多いと思います。ご自宅の耐震性能を確認する方法の1つとして、築年数があります。

～1981年	1981～2000年	2000年～
旧耐震基準	新耐震基準	現行耐震基準
大地震で倒壊する可能性大	倒壊への注意が必要	倒壊はおおむね安心

1981年以前に建てられた住宅は旧耐震基準で建てられており、耐震性能が低く大地震で倒壊する可能性が高いと言われています。
耐震診断を受けて住まいの耐震性能を知ることが大切です。結果が評点1.0未満の場合、耐震補強工事を行う必要がとて高くなります。

お住まいの耐震性能を高める工事、実際にどんな工事を行うかご存じですか？お住まいの状況によっては、外壁や内壁を撤去して耐震補強工事を行う必要があります。



例えば、柱の間に筋交いを入れたり、耐震金物で柱を固定したり、耐力壁を増やしたりするなどして建物を補強します。場合によっては、建物の基礎も新設します。

耐震基準は人命を守ることに重きを置いた基準です。耐震基準が現行の耐震基準だったとしても、住宅が絶対に倒壊しないとは言えません。
少しでも地震の被害を軽減させるためにも、お住まいの耐震性能を見直してみませんか？



はじめる減災 災害に備える 7つのポイント

減災の取り組みのなか個人ができることとして、内閣府の「減災のてびき」では7つのポイントを発表しています。減災は日頃から意識的に行動し、その対策を維持していくことが大切です。ひとつひとつは小さなことかもしれませんが、意識一つで救える命があります。ぜひ取り組んでみてください。

地域をつながり
災害時でも協力し助け合えるよう、普段から地域のつながりを大切に共助を心がけましょう。

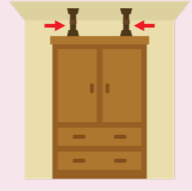


自助と共助

自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」が災害の被害を軽減する大きな力となります。普段から「自分で、家族できること」を考えてみましょう。

家具の対策

家の中で地震が起こっても、自分や家族の命を守るために家具の固定は必要です。



地域の危険

ハザードマップやゆれやすさマップなどを確認し、身の回りの危険を確認しておきましょう。



内閣府 防災ページ

地震に強い家

住まいの健康状態や耐震性能を確認し、結果に応じてしっかり補強することが重要です。



家族で防災会議

災害が発生してもそれぞれが自分の命を守り行動できるよう、日頃から家族で確認しましょう。また、災害時の連絡手段も家族の中で共有し、早期の安否確認につなげましょう。

日頃からの備え

防災のために特別に用意するのではなく、日頃から身近に備えておく工夫を心がけましょう。また、防災リュックの備蓄は定期的に期限を確認し、長持ちする保存食を備えましょう。

参考：内閣府：減災のてびき (<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/gensai/tebiki.html>)

防災リュック 中身チェックリスト

■最低限必要なもの

- 水（一人当たり最低でも500ml 3本）
- 非常食
- 携帯トイレ
- 貴重品（家の鍵、身分証、印鑑など）
- 現金
- 救急グッズ・常備薬・お薬手帳
- ヘルメット・防災頭巾
- マスク
- 手指消毒液・除菌シート
- 軍手
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 使い捨てカイロ
- 衣類、下着
- タオル
- 洗面用具（歯ブラシなど）
- 携帯スリッパ
- 乾電池
- モバイルバッテリー



■季節物・あるといいもの

- ブランケット
- 雨具・防寒具
- 寝袋
- マッチ・ろうそく
- トイレットペーパー
- 紙・ペン
- タオル
- ラップ
- ポリ袋



■女性が持っているといいもの

- 生理用品・サニタリーショーツ
- 中身の见えないゴミ袋
- 防犯ブザー
- 化粧水・クレンジングシート

避難に何が必要で、何を置いていくか。避難先・連絡先は家族全員が知っているか。災害時の住まいの危険は何か。家族と自分を守るために日頃から減災意識を持ち、災害へ備えましょう。

